

柔道専門分科会企画

武道必修化シンポジウム

中学校武道必修化に向けての教育現場の動向と課題について

シンポジスト	岩瀬 俊隆（前千葉県立大原高等学校校長）
	今関 豊一（順天堂大学スポーツ健康科学部准教授）
	宮本 乙女（お茶の水女子大学附属中学校教諭）
コーディネーター	木村 昌彦（横浜国立大学教育人間科学部教授）

日時：平成 23 年 9 月 1 日（木）13：00－15：00

場所：B 会場 国際武道大学 9 号館 4F 9406

目 的

平成 24 年度から施行される中学校新学習指導要領。間近に迫った武道必修化の、ねらいと教育現場での課題を整理し、授業展開についての提案と課題解決の方法について議論を深める。

文部科学省は、平成 20 年 3 月 28 日に中学校学習指導要領の改訂を告示し、中学校保健体育において、武道、ダンスを含めたすべての領域を必修することとしました。

柔道専門分科会では、直前に迫った中学校における武道必修化について、中学校の現場で柔道を指導されている先生に現状の課題および今後の方針等について発表していただきます。同様に長年高等学校の現場で指導に携わってこられた先生に従前の指導内容およびその問題点などについて報告していただきます。最後に、現在専門課程の大学で教科教育を担当されている先生にこれらを総括していただければと考えております。

剣道専門分科会企画フォーラム

剣道の固有性を考える

－海外における剣道学習者が、剣道に求めるもの（長期滞在指導の経験を通して）－

パネリスト 塩入 宏行（埼玉大学名誉教授）
本多 壮太郎（福岡教育大学准教授）
司 会 田中 守（国際武道大学教授）
太田 順康（大阪教育大学教授）

日時：平成 23 年 9 月 1 日（木）14：00－16：00

場所：国際武道大学 9 号館 9305

趣 旨

平成 24 年度から中学校新学習指導要領が完全実施されますが、新学習指導要領においては多くの教科で「我が国固有の」文化に触れさせることがとりあげられており、武道については、「その学習を通じて我が国固有の伝統と文化に、より一層触れることができるよう指導の在り方を改善する」とされています。剣道の内容を「我が国固有」の文化としてどのように学校教育のなかで取りあげることができるかについて、昨年度は礼法をテーマとし、小笠原流 31 世宗家・小笠原清忠先生をお招きして、武道（剣道）における「礼（法）」の意義や伝統性についてご講演をいただき、またワークショップを通じて、あらためて礼法についての理解を深めることができました。

剣道専門分科会では、本年度もひきつづきこうした剣道（武道）のもつ「我が国固有の」文化としての意義について、考察を深めてゆきたいと考えています。そこで本年大会における分科会企画フォーラムでは、海外における剣道学習者（実践者）が、剣道のどのような点（伝統性、文化性など）を日本固有なもの、あるいは魅力あるものとしてとらえているのか、についての理解を深めることによって、剣道のもつ固有性をあらためて照射してみたいと思います。

パネリストとして、ヨーロッパをはじめとする海外指導の豊富なご経験があり近年ではチリを中心とした南米において指導に携わってこられた塩入宏行先生（埼玉大学名誉教授）と、英国の大学における剣道授業を担当しナショナルチームのコーチをつとめられた本多壮太郎先生（福岡教育大学准教授）をお招きし、それぞれの長期滞在指導のご経験を通じて、海外における剣道学習者（実践者）が剣道に求めるもの（魅力、文化性、固有性等）についてのご報告をいただき、それをもとにしたディスカッションを通じて、理解・考察を深めてゆきたいと考えます。

なお、本企画は剣道専門分科会以外の方、及び一般の方も参加できます（無料）。

空手道専門分科会企画

講演 近代における空手の歴史

—空手の名称の変遷について、戦前期の単行本、新聞、雑誌などの記録から読み取る—

講師 嘉手苺 徹 (早稲田大学大学院)

空手道の国際化

講師 奈藏 稔久 (国際武道大学)

司会 片山 幸太郎 (陸上自衛隊中央病院)

日時：平成23年9月1日(木) 14:30-16:30

場所：国際武道大学 9号館 3F 9304

近代における空手の歴史

空手の名称の変遷は、呼び名や記述の変更の背後に、琉球の徒手の武術発祥に関わる問題、中国武術伝来に関わる問題、近代以降、どのような経過を経て「唐手(からて)」として学校教育に取り入れられ、さらに、空手道としての位置づけはどのように行われてきたのかという近代の空手成立に関わる問題などが含まれている。沖縄戦によって、歴史を伝える「もの」や資料が失われた沖縄県では、歴史を明らかにする際に戦前期の新聞は重要な役目を果たしている。また、学友会誌や教育雑誌等は、そこに関わる人々の思想や動向、さらに地域社会の状況を知ることができる貴重な歴史資料である。空手史の研究において、これらの資料はこれまで断片的な引用は行われてきたものの資料全体を見渡しての分析は十分行われてこなかった。

空手道の国際化

世界の競技人口が4000万人を越えるという事実からすれば「空手道の国際化」は既に十分達成されているといえるかもしれない。

本土に紹介されてから100年に満たない間になぜ空手道がこれほどまでに世界的規模に拡大、発展したのか？そこには1950-60年代海外に雄飛、空手の指導・普及に尽力した先人の努力、万国に認められた空手の魅力、そして競技化という要素を見ることができる。しかしこの「国際化」の流れは手放しで喜べることなのか、そこに内在する問題は何か、等を10年余の海外指導経験を踏まえ考察したい。そこからは我々日本の指導者が自覚、対処すべき多くの課題が浮かび上がってくる。

※13:30 - 14:30 平成23年度空手道専門分科会理事会・総会

同会場にて、空手道専門分科会平成23年度理事会および総会を開催いたします。

なぎなた専門分科会企画

講演

中学校武道必修化に向けて

ー科学の視点を取り入れたなぎなた指導ー

座長 福田 啓子（皇學館大學）

講師 藤原 素子（奈良女子大学）

日時：平成23年9月1日（木）13：00- 15：15

場所：国際武道大学 9号館 4F 9404

趣旨

平成24年度から中学校新学習指導要領が完全実施されますが、新学習指導要領においては「地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどのその他の武道についても履修させることができること」と謳われています。

なぎなたを少しでも多くの学校に取り入れてもらうために、なぎなた専門分科会では、一昨年より、中学校・高校における現場での授業と課外活動の実践報告を行い、それらの経験からなぎなたを授業に取り入れるための方策など多くを学びました。昨年は、講師を招き授業カリキュラムの作成方法を具体的に学びました。

今年は、なぎなたをどのように学校教育のなかで取りあげることができるかについて、具体的な動作の指導方法に焦点を当てることを目的とします。

なぎなたは、長物であるため、半身を使い、「振り上げ」、「振り替えし」、「持ち替え」、「突き」と多様な動作を行うため、生徒たちがなぎなたを短期間で使いこなせるように教えるためには、指導方法にも様々な工夫が求められます。足と手の動作が、一様ではなく複雑で、体の回転も使うため、速さや力よりも柔軟性や巧緻性が求められるのも他の武道にない大きな特徴であり、日本古来より、女子武道として発展してきた歴史性を持つと考えられます。

そこで、今年は、なぎなたの動きを生かして、効率よく指導できるために「科学の目」を取り入れる授業の工夫をすることを狙い、講師に全日本なぎなた連盟医科学研究委員としても活躍頂いている藤原素子先生(奈良女子大学)をお招きし、科学者の目からなぎなた動作の指導方法をアドバイスいただくことになりました。藤原先生には、これまでなぎなたの技「刃部と柄部の払い」や「巻き落とし」、「柄部による払いと払い落とし」などシリーズで実験しデータをまとめて頂いており、現場指導で活用しております。今回も本大会で発表されている内容を生かし、現場指導に科学を易しく工夫して取り入れ、指導を豊かにすることを目的とします。